

令和３年度 大阪薫英女学院中学校高等学校 学校評価

1 めざす学校像

「敬・信・愛」を建学の精神とする本校は、「21世紀の国際化した社会にたくましく生きる女性を育成する」ことを目標に掲げ、世界で活躍するとともに生涯にわたって幸せに充実した人生を送ることのできる人間の育成をめざしています。

自らの人生を切り拓き、いかなる苦難にも負けることなく「たくましく生きていく」ためには、「豊かな人間性」とともに「豊かな学力」が不可欠であることから、これら二つを一体のものとして捉え、よき集団の中で「豊かな人間性（人と関わる力）」を育むとともに、互いに励まし合い競い合って「学力の向上」を図ります。

1 国際的な視野を持ち論理的に考えることのできるグローバル人材の育成

2 夢の実現に向けた学力の育成

3 友情を育み自立心を養う

2 中期的目標

1 国際的な視野を持ち論理的に考えることのできるグローバル人材の育成

(1) 留学の充実

姉妹校との連携を深め、安心安全な留学を基本とする「長期留学」のさらなる充実に努める。現地アドバイザーとの連絡を密に、生徒の状況把握に努め、留学の円滑な実施に向けて努力します。重大事故ゼロはもとより、姉妹校との連携を引き続き促進し、プログラムのさらなる質的向上を図ります。

＊留学参加生徒へのアンケートでの満足度を、2025年度までに90%以上とします。

(2) 海外研修の充実

単なる観光ではなく体験を重視したプログラムを実施し、現地において異文化理解や国際交流が深められるよう努めます。また、これまで実施してきたニュージーランド1ヶ月留学やイギリス・カナダへの2週間語学研修、各種海外修学旅行のさらなる充実を図ります。

＊参加生徒へのアンケートでの満足度を、2025年度まで90%以上を維持し、さらに向上させます。

(3) 「実用英語技能検定(英検)」の取組み

全校を挙げて英検に取り組み、中学卒業時で準2級以上、高校卒業時で普通科は2級以上、国際科は準1級以上の取得を目標とします。

＊それぞれの取得率を、2025年度までに準2級70%、2級40%、準1級45%以上とします。

2 夢の実現に向けた学力の育成

(1) 授業の充実

公開授業、研究授業を定期的 to 実施し、「分かる授業、興味を持てる授業」に努めるとともに、さらなる授業改善に取り組みます。

＊「生徒授業アンケート」における総合評価のさらなる向上に努めます。

(2) 学習意欲の喚起

「一人で勉強しない」を合い言葉に、友人とともに学習に取り組むことで、学力のさらなる向上を図ります。

＊生徒向け学校評価アンケートの「学習活動を通じた学力向上に関する項目」について、2025年度までに肯定的回答70%以上をめざします。

(3) 夢を実現する進路指導

生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるように努めます。

＊生徒向け学校評価アンケートの「進路指導に関する項目」について、2025年度までに肯定的回答75%以上をめざします。

3 友情を育み自立心を養う

(1) とともに競い合い、励ましあって向上する集団の育成に努めます。

学校行事に真剣に取り組むことで、みんなでやり遂げた達成感を味わうとともに、互いの存在に気づき尊重する豊かな心を育むことで、クラスへの帰属意識を養い、相互に良い刺激を与え合う集団づくりをめざします。

＊生徒向け学校評価アンケートの「学校行事全般に関する項目」について、2025年度までに肯定的回答75%以上をめざします。

(2) 規範意識と豊かな心を育む

基本的生活習慣の確立に努めます。

＊基本的生活習慣の象徴として、遅刻回数を 2025年度までに 2,000回未満にすることをめざします。

(3) 安心・安全な学校づくり

いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団作りを推進します。また、そのための方策の一環として、保護者との連携の強化に努めます。

＊生徒・保護者向け学校評価の「人権に配慮した指導」に関する項目に対する肯定的回答のさらなる向上に努めます。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析　【令和3年12月実施分】	学校評価委員会からの意見
【概括】 ・この令和3年度も、生徒・保護者ともほぼすべての項目で高い評価をいただきました。 ・保護者の皆さまからは「子どもを薫英に入学させてよかった」につきまして84.4％と高い評価をいただき、25項目のうち13項目において75％以上の肯定的な回答をいただくことができました。この結果に安住することなく、ますます多くの生徒・保護者から安定した評価をいただけるよう、さらに研鑽に努めていきます。 ・自己評価アンケート結果において、生徒からはとりわけ「英検」「成績評価」「生徒会活動」「人権の尊重」「教職員の教育活動への取り組み」「学校行事や生徒会、HR活動への参加促し」についての肯定的な回答は75％を超える高い値を得ることができました。中でも「英検」につきましては82.0％と高い評価を得ています。一方、全体としての評価は昨年よりやや下降の傾向であり、0.1～5.0％程度の微減項目が25項目のうち21項目と、大半を占めています。それを超えた幅で下落したのは「学校行事」で、73.6％→67.0％と6.7％下げてしまいました。保護者アンケートのうち最も下落幅が大きかったのもこの項目で、82.2％→67.2％と15.0％もの下降となっています。これは、薫英フェスが延期となるなど、新型コロナウイルス禍によるところが大きいと思われますが、同時に延期や中止時に生徒が落胆の様子も表しています。2022年度は体育祭、文化祭ともに従来の形にできるだけ戻して実施していますので、この部分の評価は改善されると予想されます。 【学習指導等】 ・授業のうち、「生徒一人ひとりを大切にした分かりやすい授業」項目の肯定的回答は、70.4％→68.8％と70％を割り込んでしまいました。集団指導ゆえの難しさは当然ありますが、授業の分かりやすさは後述の進路にも直結しますので、今後も改善を模索します。 ・「土曜日・長期休業中の講習や補習」についても、生徒62.7％（前年62.3％）、保護者74.8％（前年80.8％）とやや数字を落としました。ゼミやJトレーニング、長期休暇における講習などの一層の改善に努めます。 【進路指導等】 ・希望進路の実現に向けて、「カリキュラム」及び「進路実現への教職員の積極的な取り組み姿勢」について概ね高い評価（生徒：74.3％、74.3％／保護者：77.7％、77.6％）を得ることができ、日常的なきめ細かな指導が評価されたものと素直に喜んでいます。 ・希望進路の決定は生徒、保護者、教員の最大目標であり、引き続き進路指導室、高校3年学年はもとより全校的な協力体制のもと、生徒一人一人にきめ細かな指導をしていきたいと考えています。 【生徒指導等】 ・遅刻・身だしなみなどの基本的な生活習慣は、学校生活全般はもとより、授業にもつながる、大切な要素だと認識しています。薫英では、一人ひとりの状況も斟酌し、画一的な指導ではなく日常的な教職員と生徒の信頼関係に根ざした「血の通った指導」に努めています。おかげさまで、保護者向け学校評価アンケートでは、77.2％の肯定的回答をいただきました。 【その他、学校運営等】 ・大学入試改革はもとより社会の変化が急速に進む中、これからの時代を生きる子どもたちに求められる「力」も、これまでとは変化しているように感じており、学校運営についても、不易流行をしっかりと見極めた「改革」が求められる状況となっています。 ・大局的かつ冷静にこれらの変化を見極めて、過度に変化を懼れることなく学校運営（体制）についても、3年・5年先をきっちりとイメージしながら見直していきます。 ・今回のアンケートで肯定的評価が半分を割り込んだのは、生徒アンケートの「施設・設備（45.1％）」「教室・廊下・トイレ等の環境（46.9％）」でした。耐震化工事、エレベーターの設置などさまざまな手は打っていますが、引き続き取り組んでまいります。 ・インターネットを利用した緊急連絡システム（Fair Cast）による学校情報、内部の情報共有についても、保護者の77.8％から肯定的回答をいただくことができました。なお、Fair Castは令和4年度末でサービスを停止しますので、後継システムの精査につきましても取り組んでまいります。	【概括】 ・学力、行事等、このコロナ禍においても生徒のやる気をアップさせる指導の成果が出ている。 ・学校内の生活環境、美化、清掃など女子校らしい明るくきれいな学校、自然を愛する緑や花で心の優しさや慈しみの心を育ててほしい。また、「敬・信・愛」による、真の薫英精神をもってほしい。 ・本「薫英」にある薫英精神を、今の時代に合わせて学校生活全般の基盤にしてもらいたい。 ・厳しい状況の中でも、留学の継続や行事の実施など、学校全体がよく尽力された1年間だったと感じている。 【学習指導等】 ・「土曜日・長期休業中の講習や補習」については、その実施も見据えた上で効率的なカリキュラムが組まれており、「学校としての活動に乗れば生徒が伸びる」というシステムになっているのは素晴らしい。また、それとは相反する部分はあるかもしれないが、生徒の自主性もますます育てていってほしい。 ・校外の塾や予備校に通うのも有益だが、それ以上に学校の環境で学習の方が成績としては良い結果に繋がるのではないかと感じる。今後も、現在の方向性を継続していただきたい。 【進路指導等】 ・学校の進路指導全般には、概ね満足している。生徒もそれぞれ、しっかり考えているのが家庭でも伺える。ただ、（生徒が言わないせいもあるが）なかなかその指導実態が保護者からは見えない部分もあるので、保護者向けの進路情報の発信もできればお願いしたい。 ・学年が上がると進路指導室の利用頻度が上がるのはもちろんだが、下の学年からの利用も促進していただきたい。ただ、特に高3の推薦入試前には進路や学年、担任の先生からかなり密に指導していただいているので、人員としては難しいかもしれない。 【生徒指導等】 ・身だしなみなどはもちろんだが、保護者の立場からは「三点固定（起床、就寝、学習スタート）」はかなり良い。多くの先生から異口同音に指導してもらっているため一貫性もある。継続した働きかけがあるので、生徒たちもよく意識している。 【その他、学校運営等】 ・施設面についても要望したい部分はあるが、学校としては最近頻繁に工事を行われているので、現状に即した改善を進めてもらいたい。廊下などは、床の色が変わっただけでも大きくイメージが改善された。 ・地域への気遣い、例えば行事の際に近隣へお知らせやパンフレットの配布などはできないか。検討してほしい。 ・温暖化への対策を、学校全体として取り組めないか。例えばミストを噴出するなど、工夫できるなら考えてほしい。 ・先生方、生徒たちの頑張りを、外部に向けてより一層上手に伝えていってほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組み計画内容	評価指標	自己評価
1 国際的な視野を持ち論理的に考えることのできるグローバル人材の育成。	(1)海外留学の安全な実施と内容の充実	ア. 全ての海外における学習が安全に行えるよう体制の整備、生徒の支援に取り組む。特に1年間の長期にわたる留学については無事に終えることができるよう、現地との連絡を密にして生徒を支援する。 イ. 1年間の留学を意義あるものにするために、親元を離れ海外で生活する決意を固め、具体的目標を持って留学に望むよう、留学説明会や保護者交流会を定期的に実施する。 ウ. 姉妹校との連携の強化、並びに現地アドバイザーと本校国際教育部との連携を密にし、生徒や保護者を支える体制の維持に努める。	ア. 生徒の安全にかかる重大事故0に努める。 イ. 決意を持って留学ができたか、予期した成果のある留学であったかを留学後に検証する。 ウ. N Z 駐在教員が生徒の留学している全ての姉妹校を訪問し、生徒の状況を把握するとともに、姉妹校との連携に努める。	ア. 新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延する中、1年留学を無事全うしました。また、1月には長期留学者全員がカナダへと出発しました。英語進学コースの短期留学は行き先をハワイに変更して実現できました。(◎) イ. 留学説明会は5・8・11月と計3回実施しました。(○) ウ. 新型コロナウイルス感染症の広がりによって留学先の大部分を占めていたN Z への渡航が困難となり、留学先は2年連続でカナダとなりました。現地駐在教員を令和3年9月より派遣し、現地体制の強化を図りました。(○)
	(2)各種海外研修の充実	ア. 各種海外研修についても、事前の準備を含めて、内容の一層の充実に努める。	ア. 海外研修後の生徒アンケートにおいて満足度80%以上	ア. 生徒アンケート結果 今年度も新型コロナウイルス感染症の世界的な流行のため、実施できませんでした。(△)
	(3)実用英語技能検定(英検)の取り組み	ア. 「英検取組み週間」を設定し、クラスの仲間とともに、より上級にチャレンジする。	ア. 中学卒業時に英検準2級以上70%、高校卒業時に2級以上60%の取得。	英検について、中学卒業時の英検準2級以上取得は71.9%と目標を上回りましたが、高校卒業時の2級以上取得は56.4%と成果指標を達成できませんでした。しかし準1級取得40名に加え、20年連続で1級取得者(3人)を輩出することもできました。(○)
2 夢の実現に向けた学力の育成	(1)授業の充実	ア. 公開授業および各教科による研究授業を実施し、授業力の向上を図る。授業アンケートを実施し、「分かる授業、興味を持てる授業」を目指して、更なる授業改善に取り組む。	ア. 授業アンケート結果 3.2を目標	ア. 生徒授業アンケート結果は、総平均3.30と目標達成できました。「分かる授業・興味を持てる授業」をめざして、さらなる授業改善に取り組みます。(○)
	(2)学習意欲の喚起	ア. 「一人で勉強しない」を合い言葉に友人とともに学習に取り組み学力の向上を図る。	ア. 各クラスにおける定期テスト対策学習会の実施状況。自習室の利用状況。	ア. 年5回の定期考査前には約1週間の学習会取り組みも全クラスに定着し、参加率はほぼ100%でした。また、自習室については年間利用者数延べ2,485人となり、1日当たりの利用者数は昨年度並みとなりました。(○)
	(3)夢を実現する進路指導	ア. 主体的に進路目標を定め、真に望む進路が実現できるよう支援に努める。 イ. 大学進学ゼミ・Jトレーニング・理数指導室の開講	ア. 「行ける大学」ではなく「行きたい大学」が選択できる進路相談を、高校3年生で5回程度実施する。 イ. 国公立大学10名以上、関関同立90名以上合格。	ア. 進路ガイダンスを高1で1回、高2で3回実施。高3においては、保護者対象2回、生徒対象5回実施。生徒の進路選択の支援に努めました。(○) ア. 国公立4名、関関同立63名の合格と目標値には至りませんでした。(△)早期から進路説明、情報提供などで、生徒に国公立・私立大学などについて意識を持たせることを目指します。

3 友情を 育み自立心 を養う	(1)ともに競い合い励まし あって向上する集団の 育成に努める。	ア. 学校行事に真剣に取り組み、互い の存在に気づき尊重する「豊かな 心」を育む。また、行事準備期間 を重視しさまざまな葛藤を経てク ラスへの帰属意識を養い、ともに 支えあう集団を育成する。	ア. 生徒向け学校評 価アンケートにお いて、行事に対す る肯定的回答70% 以上	ア. 生徒向け学校評価アンケート結果では 肯定的な回答が67.0%（昨年度73.6%） と、今年は行事の延期、中止に伴い評価 が下降し、目標を達成することができま せんでした。新型コロナウイルスの環境 下では難しい部分ではありますが、行事の 実現に向けて尽力していきます。（△）
	(2)規範意識と豊かな心を 育む	ア. 基本的生活習慣の確立と規範意識の 醸成	ア. 保護者に対する アンケート結果 で80%	ア. 保護者向け学校評価アンケートでの「 生徒指導方針への共感」について肯定 的な回答は77.2%（昨年度76.9%）と 、残念ながら目標の80%に達しません でした。地道な指導がもっとも大切で あり、引き続き努力します。（△）
		イ. 生徒会活動の活性化を図り、生徒 の主体的な活動を支援する。	イ. 生徒会活動の 状況生徒向け学 校評価アンケー トでの肯定的回 答70%以上	イ. 生徒向け学校評価アンケート結果は、 肯定的回答が77.5%（昨年度78.8%） と目標を越えることができました。引 き続き日々の生徒会活動を支援してい きます。（◎）
		ウ. クラブ活動の活性化 放課後の活動の中で、クラス、学 年、ブロックを超えた生徒間の関 わりを持たせる。 強化クラブ（陸上、バスケットボ ール、ソフトテニス）の大会実績 の向上。	ウ. クラブ活動の実 績 外部競技会への 参加、他校交流 を奨励する。 強化クラブの上 位入賞を目指す 。	ウ. 陸上部：全国高等学校駅伝競走大会に 16年連続16回目の出場を果たし、準優勝 となりました。 高校バスケットボール部：ウィンターカ ップ準優勝を果たしました。これらの成 果を他のクラブの活動にも波及させてい きます。（○）
	(3)安心・安全な学校づく り	ア. 一人一人を大切に作るクラス（居心 地がいいと感じるクラス）を生徒と 共に協力して作る。本校「いじめ防 止基本方針」に基づきいじめ事象の 未然防止に努める。	ア. 保護者・生徒向 け学校評価アン ケートで肯定的 回答80%を目指 す。	ア. 「人権を重視した指導」に対する肯定 的な回答は、保護者は84.7%（昨年度 84.5%）と目標を達成しましたが、生 徒は79.3%（83.4%）と残念ながら目 標をわずかに下回りました。より一層 、いじめ防止はもとより、充実した指 導に努めます。（△）
		イ. 保護者への情報の提供、共有に努め る。	イ. 保護者アンケー ト結果で肯定的 な意見80%を目 標とする。	イ. 保護者向け学校評価アンケートでの肯 定的回答77.8%（83.4%）と目標に達 しませんでした。ただしこれは、新型 コロナウイルス感染症に対応する際に 緊急のものが減ってきたという外的要 因も考えられます。また、PTA活動に対 する肯定的回答も77.8%（昨年度84.5 %）やや減少しました。こちらも新型 コロナウイルス禍によって活動が大き く制限されたという外的要因が考えら れます。引き続き、学校と保護者が一 体となった指導に努めます。（△）